

校長室だより

共学共高

第
53
号

令和5年9月12日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

第60回 白梅祭～部活動編

9月10日(日)は第60回白梅祭の一般公開日であった。一般公開といっても、コロナ禍前に戻したのではなく、中学生とその保護者、在校生保護者、卒業生に限定しての公開であった。それでも2278名のお客様にご来校いただき、クラス企画の飲食店は午前中で売り切れとなってしまったり、急遽再入荷して対応したりとなかなか大変であった。生協の食堂も複数の特別メニューを用意して対応したが、お客様の数が多く、ご迷惑をおかけしまった。しかし、多くのお客様に生徒たちの活躍をご覧いただけたことは、本校としてはありがたいことであった。

私は、すべてのクラス企画・部活動企画を見て回ることにしている。とはいっても、校内発表と一般公開の2日間だけではとてもすべての企画を回ることは不可能である。したがって、前日準備の日に行われる文化部のリハーサルを4時間余りにわたって、第2大体育館で見守ることにしている。今年も、軽音楽部、ダンス部、書道部、バトン部、吹奏楽部の様子を見た。どの部の生徒も一所懸命だ。自分たちの最もよい表現を見てもらおうという意気込みが伝わってくる。軽音楽部の演奏の際には、演奏するバンドの正面に複数の部員たちが一列に並んで、各楽器の音のバランスなどを確認している。終了後には、すべての部員が集まってミーティングをしてから解散するのだ。チームワークの良さが伝わってくる。それは、吹奏楽部も同様である。引退した3年生たちが後輩たちの演奏を見聞きして、合間にアドバイスをするのだ。表情や音の出し方など、何人もの3年生が温かくかつ厳しい助言を寄せていた。こうした生徒たちの主体性が前面に出ていることは、立派なことだと感じる。書道部やダンス部のパフォーマンスも昨年よりもバージョンアップしている。部員数も増えていて迫力も増しているようだ。バトン部はバトンの空中技(?)の技能が向上しているように感じる。バトンを落とす場面が、例年よりも少なくなっているのだ。演劇部は1年生の入部者数が少なくて出演できなかったようだが、来年に期待したい。





多目的ホールでは、合唱部と箏曲部が演奏を披露する。こちらも当日は見る事ができないので、私は校内発表日の午後のリハーサルにお邪魔した。合唱部は2曲披露するが、素敵なハーモニーを奏でている。特に、ソプラノが声量もあってしっかりと聴く者のところに届いてくる。箏曲部は学年ごとに演奏を披露するが、初心者から始めた部員たちも立派に演奏できるようになっていて頼もしい。2年生は表現力も増してきて、メッセージが届いてくるように感じる。全員浴衣姿もよく似合っていて、素敵だ。

同じ多目的ホールでは、華道部の作品が展示されている。普段の活動の様子を時折見ているが、さすがに文化祭ということもあって、一層華麗で表現力のある作品が凛として並んでいる。茶道部のお茶会には公開当日に参加させてもらった。カエルの形をした程よい甘みのお菓子をいただいた後に、お茶をいただく。浴衣姿の生徒たちが丁寧に接してくれ、美味しくいただいた。いつか国際交流をする機会があったら、箏曲部、華道部、茶道部には活躍してもらいたいものと秘かに思っている。そのときは、よろしくお祈りしますね。





H棟1階では児童文化部の部屋があり、就学前のお子さんが遊んでいる。魚釣りのコーナーでは、釣り竿の先端に磁石がついていて、紙で作られた魚にはクリップがついていて、釣り上げられるようになっている。そのことを教えてあげると、女の子が見事に釣り上げたので、拍手をしてあげた。その場で保護者の方に「校長室だより、いつも楽しく読んでいます」と声をかけられたので、俄然（がぜん）書く意欲が高まった私がいる。

同じH棟1階には、写真部の展示がある。季節ごとに部員たちが撮影した写真が並べられている。顧問のN先生によると、新たにプリンターを購入したので、大判の作品の展示が可能になったとのことだ。個人的には、秋のコーナーにあった水面に木々が移る写真が好きだ。今年から部に昇格した漫画研究部のコーナーでは「部誌を買ってください」と声をかけられたので、素直に応じた。再び同じコーナーの前を通過しようとしたら同じように声をかけられたので「すで買ったよ」と応じると、「缶バッチを作りますか?」と声をかけられたので、素直に応じることにした。漫画研究部には、だいぶ貢献した。文芸部のコーナーでは部員が一人、椅子に腰かけて「文芸部です。部誌を配っています」とお客様に声をかけている。私はいつも受け取って、ゆっくりと校長室で読むことにしているが、お客様の数が多いので、その場ですべての創作作品を速読した。部員たちの個性あふれる作品がいくつも掲載されていた。国際文化部の活動内容を確認することができなかったのが心残りである。自然科学部の部屋では、前日に北海道で学校発表してきたばかりの生徒たちと懇談した。光る海藻の謎に迫る研究は、レベルの高いものだ。美術部の部屋では部員とは会えなかったが、いくつもの作品が展示されていて華やかである。生徒会のスタンプラリーは、賞品の缶バッチが欲しくて、初日に完成させた。生徒会のみなさん、前日にわざわざPRに来てくれてありがとう。



忘れていけないのは、手芸部と家庭科の授業での実習作品の展示だ。C棟の1階家庭科室なので、少し地味な位置にあるように思えるが、力作が並んでいる。実習作品では、1年生の作ったポーチがずらりと並んでいる。それ以外にも住居や保育に関する展示が所せましと置かれている。手芸部では「お守りこぞう」を購入予約した。4種類ある中から一つを選ぶのだが、部員のYさんが「校長先生が選んだのは私とおそろいです」とさりげなくつぶやく。

本校には、SFP (Shiraume Frontier Project) という学年やクラスを超えた学びの場がある。そこでフェアトレードに関心を持った生徒たちが、有志企画として参加しているコーナーがある。事前に製菓会社を訪問して、下調べをしたうえで、展示や商品販売をしている。フェアトレードについて説明した展示作品は、2年生のSさんの作成したものが特に素晴らしかった。私はレモンマカロンとパイナップル・ドライフルーツを購入した。



学校には、それぞれの文化がある。その文化は伝統として引き継がれているものもあれば、そこにいる新たな生徒たちによって創られていくものもある。いずれにせよ、文化は人が創り上げていくものである。白梅には白梅生たちの文化があり、その発表の場がこの「白梅祭」なのである。(つづく)

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)